



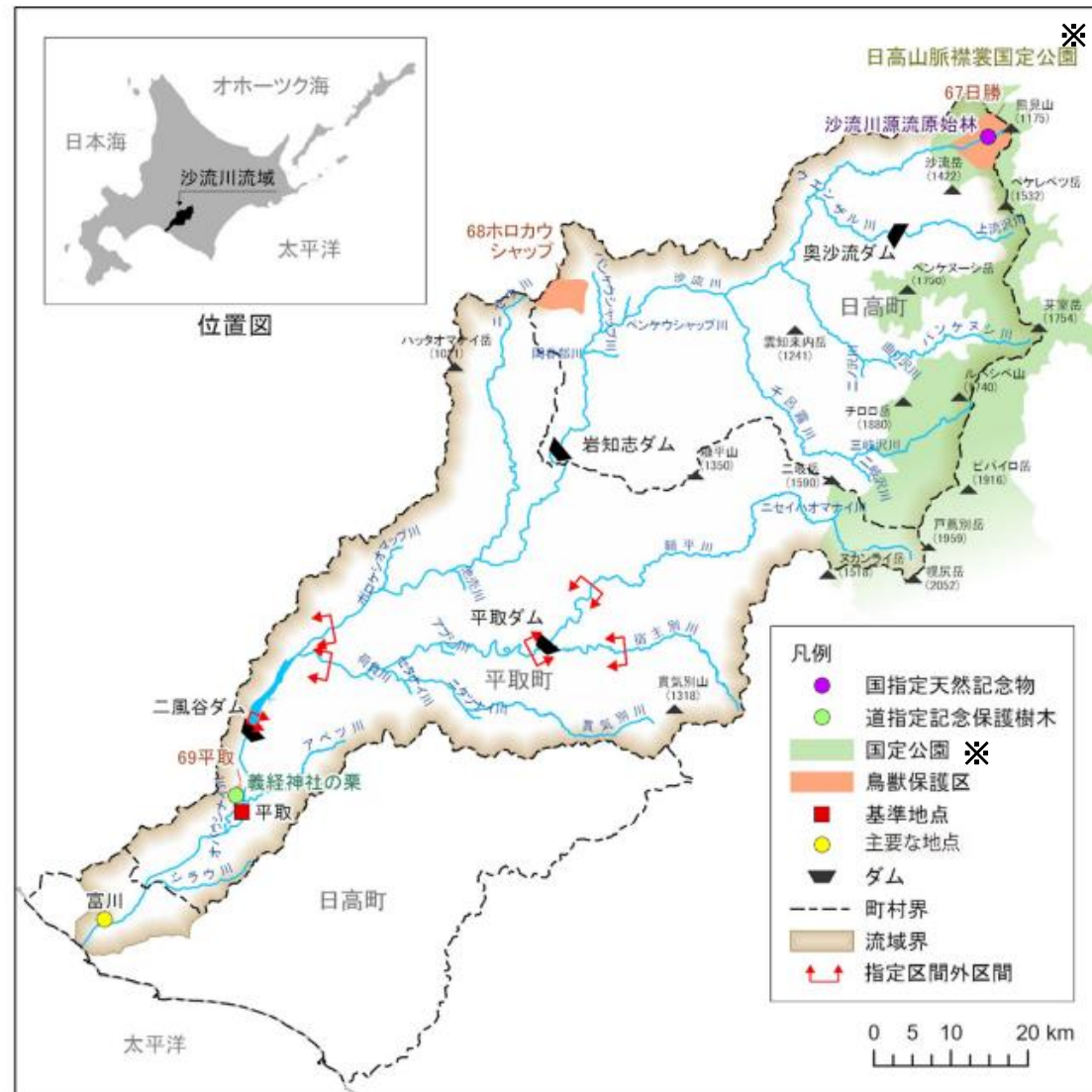
共に北海道の未来を創る
第9期北海道総合開発計画

平取ダムにおける 多自然川づくりの取り組み

北海道開発局 室蘭開発建設部
鵠川沙流川河川事務所 平取ダム管理支所
七五三 拓海

流域面積 : 1,350km²
 幹川流路延長 : 104km

- ・ 沙流川流域の源となる日高山脈は令和6年6月日高山脈襟裳十勝国立公園に指定
- ・ 最も標高のある幌尻岳(標高2,052m)はアイヌ語で「大きい山」を意味し、山頂からは幾重にもなる日高山脈の山並みが一望できるなど、魅力あふれる山としてアルピニストに人気
- ・ 平取町は、「アイヌの伝統と近代開拓による沙流川流域の文化的景観」が文化財の価値として特に重要な「重要文化財的景観」に平成19年(2007年)7月に北海道で初めて選定された地域



※: 令和6年6月26日日高山脈襟裳国定公園は日高山脈襟裳十勝国立公園になりました。

平取ダム全景



【平取ダムの諸元】

- ・ 場 所 : 沙流郡平取町字芽生
- ・ 形 式 : 重力式コンクリートダム
- ・ 目 的 : 洪水調節
流水の正常な機能の維持
水道用水の供給
- ・ 堤 高 : 55m
- ・ 堤 頂 長 : 350m
- ・ 総貯水容量 : 45,800千 m^3
- ・ 集 水 面 積 : 234 km^2
- ・ 管 理 開 始 : 令和4年7月

流水型期間(4月～6月)



令和 5年6月撮影 EL=140.7m

貯水期間(7月～翌年3月)



令和 5年8月撮影 EL=152.5m

平取ダム周辺のアイヌ文化伝承の場

- 平取ダムはアイヌ文化保全に配慮しながら建設を進め、令和4年7月より管理開始

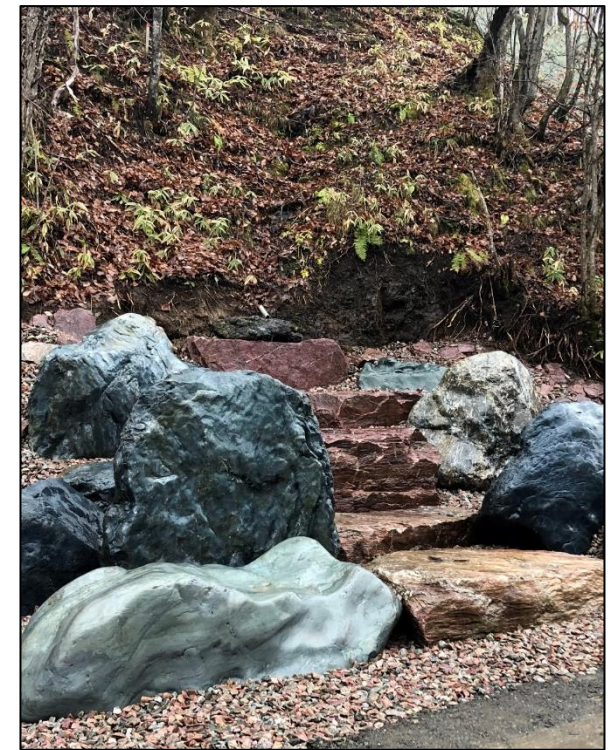




チノミシリ



ペテウコヒ



カムイワッカ

【ci=nomi-sir】

(チ=私たち ノミ=祈る シリ=土地・山)
アイヌの人たちは山、崖、川、湧き水等
様々なものに神が宿ると考えカムイノミ
(神への祈り)を行ってきた。
ダム周辺の崖もその対象地がいくつも
あると伝承されている。

【<pet-e-u-kot-hi】

“川が繋がる所”という意味
ダム流入支川である額平川と宿主別川
の合流点はカムイ(神)たちが集まって
コタン(集落)を守る相談をしていた場所
として伝えられている。

【kamuy-wakka】

(カムイ=神 ワッカ=水)
アイヌの人たちは、湧き水を神聖なもの
とみなしていました。

アイヌ文化伝承に欠かせない植物①(ガマ)

- ガマは、生活に用いる道具の材料として様々な物に用いられている
- 主に止水域やため池などの湿地に定着する湿生植物で、日本全国に分布している

ガマ



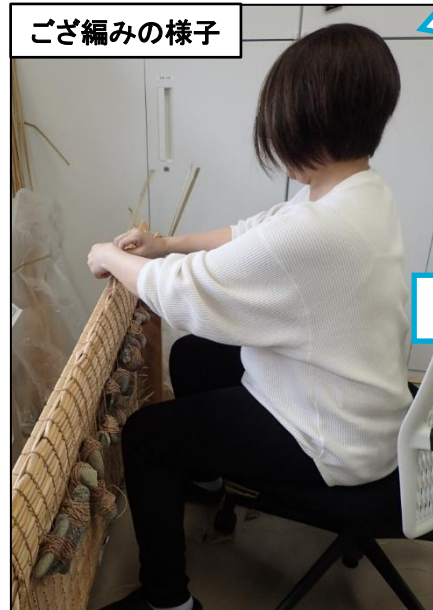
採取後のガマ



乾燥後のガマ



ござ編みの様子



ござ



枕



平取町立二風谷アイヌ文化博物館 より提供

小物入れ



平取町立二風谷アイヌ文化博物館 より提供

アイヌ文化伝承に欠かせない植物②

- アイヌ文化では、各地域に生育する植物を利用して衣類、生活用具、食材、薬など様々な面で活用してきた文化が伝承されている
- これらの植物はそれぞれ生育条件が異なるため、生育環境の創出・保全が重要

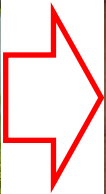
衣類: オヒョウの樹皮→着物(アットウシ)に



食材: 行者ニンニク→オハウ(汁物)の具材に



生活用具: ガマの茎→ござ(チタラペ)に



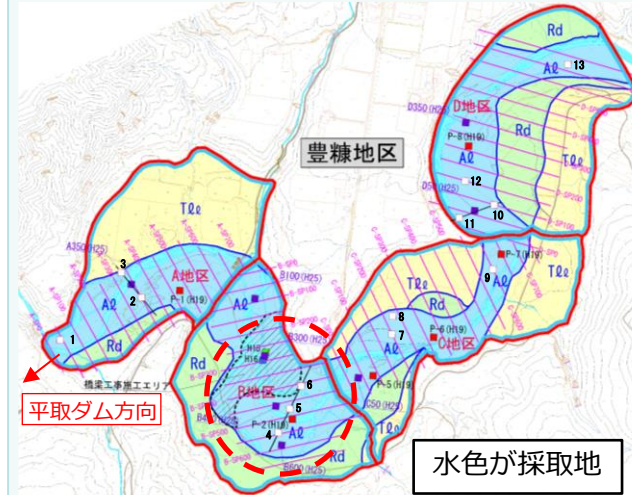
薬: キハダの実→乾燥させ胃薬に



平取ダム建設に伴った周辺環境の変化

- 平成27年1月より本体工事が着工し、同年8月より事業用地(豊糠地区)から骨材を採取
- 骨材採取後、豊糠橋周辺には沢水の流入等により**多数の池が出現した**

骨材採取状況(豊糠地区)



堤体打設状況



クレーンを使ってコンクリートを打設する。その後、打設時に巻き込んだ気泡等を除去するため、振動機を使って締め固める。

骨材採取後、沢水の流入等で多数の池が出現



関連施設

骨材製造設備



コンクリートの材料となる骨材(砂・砂利)を製造している。

骨材貯蔵ビン



製造した骨材を貯蔵している。

湿生植物であるガマの発見・保全対策



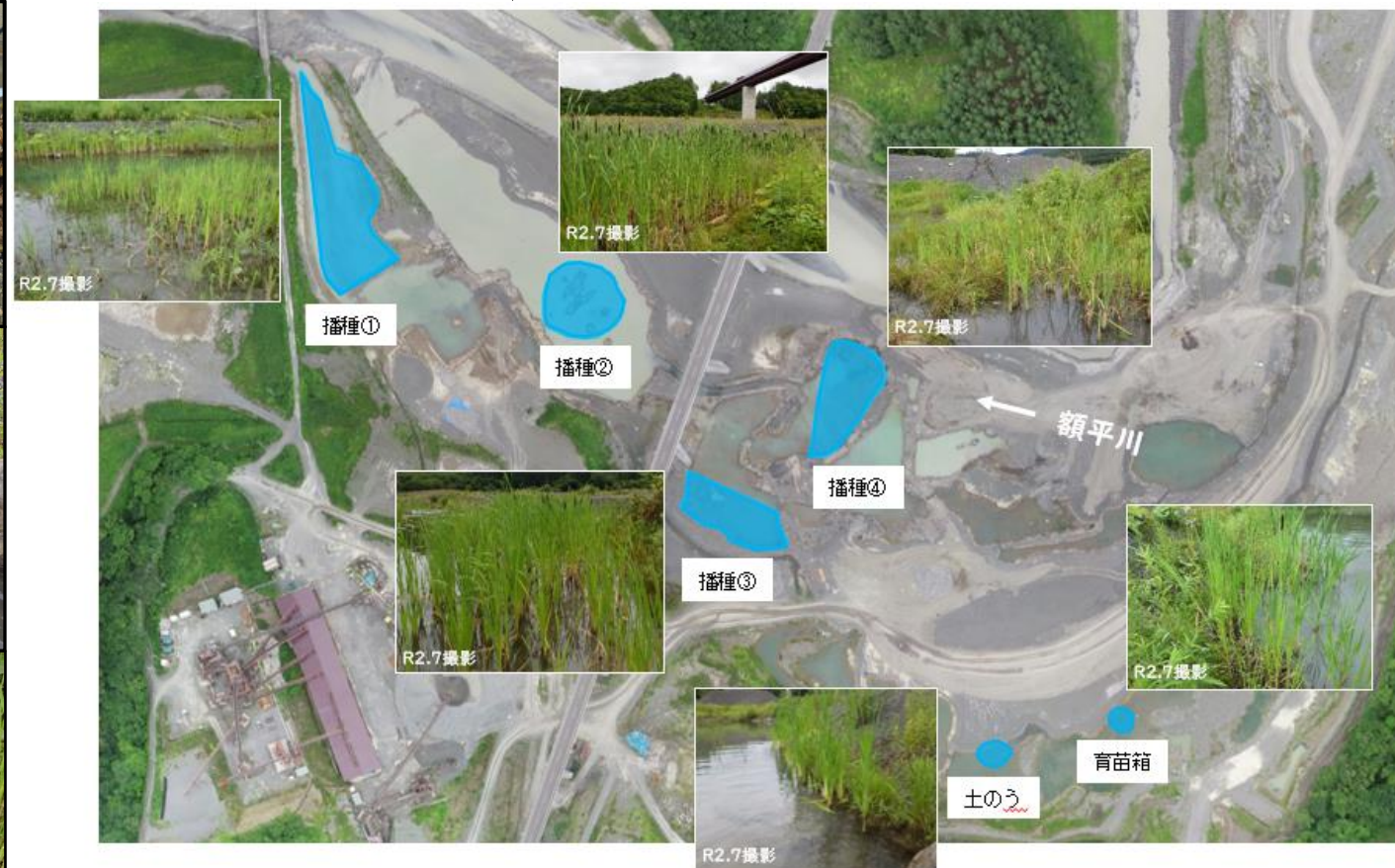
国土交通省

北海道開発局 室蘭開発建設部

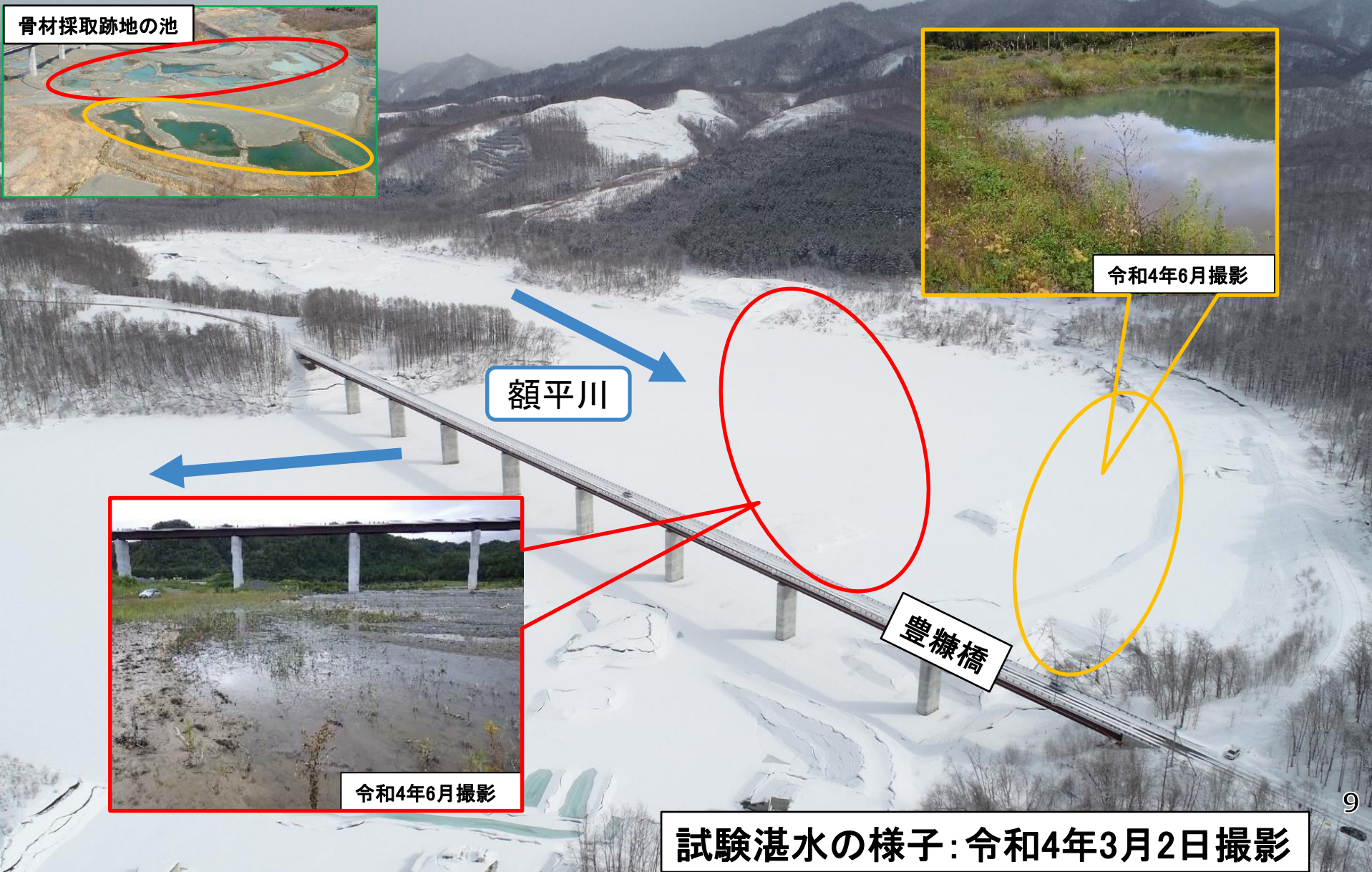
- 掘削してできた池に様々な植物の種子が流入し、その中で**ガマの萌芽・定着を確認**
- アイヌ文化に即した水辺空間活用の観点から、**ガマの生育数をさらに増やす目的**で池を敷き均さず残存させ『**種子の播種**』『**土嚢苗による植栽**』『**ポット苗による植栽**』を実施

H30年に実施

R2年に確認



- 令和4年4月までの試験湛水により、掘削箇所が水没したことで、保全したGammaが消失



- 試験湛水後の令和4年度以降、**消失したガマがふたたび定着しているのを確認**
- 令和6年度の現在においても定着し続けている⇒**再度、保全対策を実施**

R4年(試験湛水後1年目)撮影



植栽したガマが消失

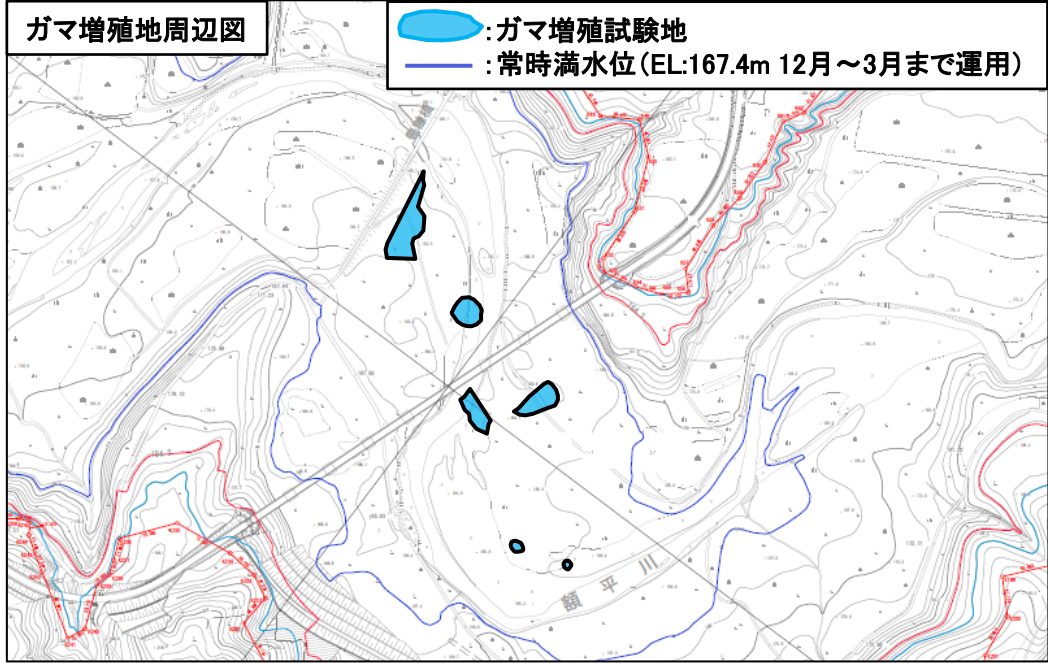
R6年(試験湛水後3年目)撮影



ガマが定着

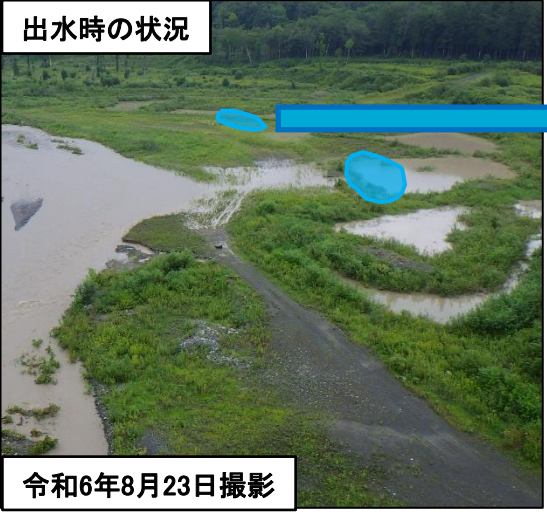
令和6年6月27日撮影

ガマ増殖地周辺図



●: ガマ増殖試験地
—: 常時満水位 (EL:167.4m 12月～3月まで運用)

出水時の状況



令和6年8月23日撮影

出水後のガマの状況



令和6年9月25日撮影

ガマ増殖・価値の向上に向けた取り組み

- 令和6年9月、平取町役場と共同して、ガマの増殖に向けて植栽活動を実施
- ガマは水面下の部分(柔らかく、材として使用しやすい部分)が多いほど価値が高い
- 価値を高めるため、流出口に堰板を用いて水位の堰上げ(水深増)を実施する予定

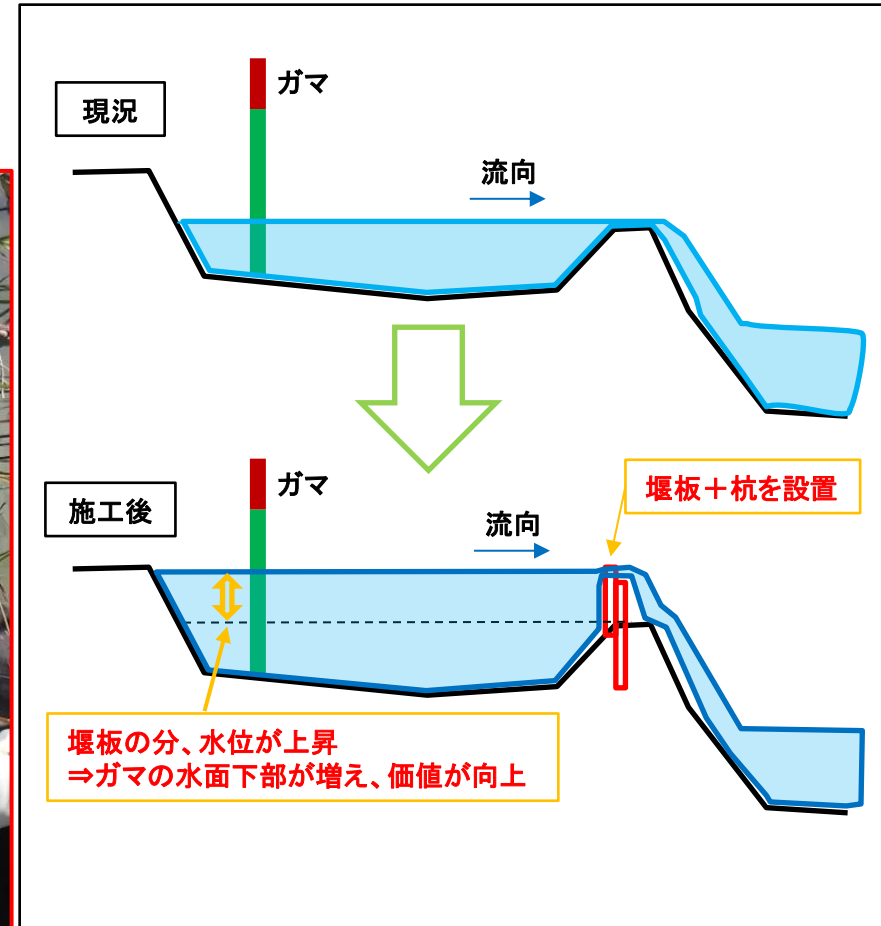
池に植えている様子



育成苗



令和6年9月25日撮影



平取ダム着工から現在までのガマ保全・創出活動

年度	平取ダムの状態	豊糠地区の状態	ガマ	保全対策
H27	本体工事着工	骨材採取（池創出）	未確認	未実施
H28		池が残存		
H29		池が残存		
H30		池が残存	確認	実施
H31(R1)		池が残存		
R2		池が残存	確認	実施
R3	試験湛水	水中	未確認	
R4	竣工→管理開始	池が残存	消失	
R5		池が残存	確認	検討
R6		池が残存	確認	実施

- ダム建設時の骨材採取跡地に**ガマの定着が確認されたことをきっかけに**、ガマ増殖池としての活用を検討した
- 令和3年度の**試験湛水により一度消失したように見えたが**、モニタリングを継続した結果、**令和5年度に再生産**されていることを関係者と確認した
- 引き続き関係者と意見交換を行いながら、平取ダム周辺のアイヌ文化伝承に欠かせない植物の保全・創出の取り組みを行う

現地意見交換会



令和6年8月6日撮影

現地調査



令和6年9月12日撮影

地域の関係団体

- 平取町 アイヌ政策推進課 アイヌ文化保全対策室

調査設計関係者

- 株式会社 建設環境研究所
- 株式会社 リブテック
- 株式会社 ドーコン

工事関係者

- 西松・岩田地崎・岩倉特定建設工事共同企業体

ご協力いただき、ありがとうございました。